

令和6年度とよたシニアアカデミー通年コース

文化工芸学科 6月の講座風景

6月は、オープンして間もない「豊田市博物館」に施設見学に行きました。豊田市の自然環境との中で育まれた歴史、文化、産業の営みを学び未来につながる学びを感じ取ることができました。

また、「狂言を楽しむ」講座では、能楽師 井上松次郎先生に室町時代より600年以上演じ受け継がれてきた、日本最古の音楽劇と言われる能楽についてご講義頂き、守り継いでいく必要性を感じました。

また、能楽堂の能舞台を足袋を履いて歩くなど、貴重な体験をすることができました。

「豊田の施設見学①～みんなで作る新しい博物館～」6月5日(金)



坂茂（ばん しげる）氏設計 豊田市博物館



豊田の歴史や産業などの貴重な資料や懐かしい物がたくさん展示しており、みなさん興味津々!!



豊田市博物館のコンセプト

- ①すべての人に開かれた「みんなで作る博物館」
- ②多様な価値や魅力を守り、伝え、育む「豊田市ならではの総合博物館」
- ③回遊性や持続性に配慮した「21世紀の建築としての博物館」

【ふりかえりより】

- 豊田市の博物館とはどんなところか楽しみにしていました。豊田市の自然、歴史、産業などを学び、未来をはぐくむ場をめざして作られた博物館でした。身近な展示物が多く懐かしく見学しました。
- 豊田という広大な地域の歴史が展示しており、今回古墳や城跡がたくさんあるのを知った。養蚕から自動車産業への大きな転換により、世界的に有名な豊田市になったが、構成する人々も様変わりしたと思う。
- 今話題になっている「南海トラフ地震」などが起きた場合の避難所として、また、市の救護施設を置くのにも役立つ場所だと言う事です。将来何が起こるかわかりません。文化施設と共に災害時用の施設としても必要なものだと思います。



「狂言を楽しむ」①6月19日(水)



能楽師 井上松次郎氏

【ふりかえりより】

- 古典芸能にふれる機会が無く能や狂言を知る機会に興味深く講師の話が聞けました。能楽堂で狂言を観てみたい!
- 興味深い内容と講師の先生の声の迫力に引き込まれて行きました。「楽」の成り立ちに、古典芸能が深くかかわっていることを知って面白いと思った。
- 芸能の根幹はどちらも願い事・平和・雨ごい等同じ物なんだ!



「能」と「狂言」の違いなど詳しくご講義頂きました。

「狂言を楽しむ」②26日(水)



狂言風にご挨拶「おはよお～うございます!」



楽屋で「白足袋」に履き替えて能舞台に上がる心構えを!



能舞台へ上がる前に面を付ける「鏡の間」



舞台正面奥の松が描かれている羽目板「鏡板」の前で先生のお話を聞くと、改めて伝統文化を守る大切さを感じます。



【ふりかえりより】●能楽堂の楽屋にも入れて頂き舞台にも上がらせて頂きとても感激しました。これからは能、狂言、歌舞伎を鑑賞する機会を見つけて、日本の芸能の素晴らしさを味わうようにしたいと思います。

●能舞台の成り立ち、構造や楽屋の配置及び狂言の発声、仕草を学び狂言の理解が深まりました。特に狂言は、喜劇であり、人の失敗談が多いことや役者と客が一体となる総合芸術であることを学び、興味が深まった。

●井上氏の良く通る声に驚きました。伝統を受け継いでいく為の努力の大変さも思い、私たちができることはその舞台を観る事かと思いました。みんなで日本の伝統文化を守る事に、少し力になれたらと思いました。

